

紙と不織布の可能性に挑戦



ハビックス株式会社

代表取締役社長

木村 敏之氏

- 住所：岐阜市福光東3-5-7
- TEL：058-296-3911
- FAX：058-296-3921
- URL：<https://www.havix.co.jp/>
- 事業内容：不織布関連事業：パルプ不織布（原反）、パルプ不織布（加工品）、化合繊不織布（原反）、紙関連事業：衛生用紙（原紙）
- 従業員数：205名（平成27年9月時点）

■ 中間素材に特化 衛生素材を中心に製造

聞き手：御社の歴史についてお聞かせください。

木村社長：昭和25年に関市で味噌、たまり醸造業として創業しましたが、将来性を考え、わずか2年後に製紙業に転換しました。当初は、古紙を原料とした黒ちり紙の製造をしていましたが、その延長線でトイレトペーパーの製造を始めました。その後、さまざまな企業がトイレトペーパーに参入してきたため、取り扱う製品の転換を図りました。外食のナプキン原紙、紙オシボリの原紙に着目し、最終製品から中間素材へとシフトしました。大きな転機のひとつは、アメリカの大手日用品メーカーであるP&G社に、紙オムツの吸収体を包む紙の供給を開始したことです。オムツは当初は布が主流でしたが、昭和50年代に入り、日本でも紙オムツが徐々に普及し始めました。そのような中、P&G社から直接お声をかけていただき、昭和57年に正式に採用されましたが、これは当時弊社が中間素材に特化していたから実現したのではないかと考えています。紙オムツがきっかけで、衛生材料分野に進出し、今日まで主力分野として続いています。また、当初は紙だけでしたが、昭和61年には、紙と同様の衛生素材として不織布の生産も開始しました。現在は、紙と不織布の2つの事業を行っています。

■ 紙と不織布を取り扱う国内唯一のメーカー

聞き手：御社の特徴をご紹介いただけますか。

木村社長：紙と不織布の両方を取り扱っているのは、国

内ではほかにありません。紙は、紙オムツ、紙オシボリなど衛生用品に使用されています。特に紙オムツ向けの紙は、お客様から「通気性を保ちながら強度を高めてほしい」というような高度な要求もあり、高品質が求められる厳しい用途です。不織布は、化合繊不織布とパルプ不織布を生産しています。化合繊不織布は、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリエステルなどの化学合成繊維を原料としており、紙オムツや生理用ナプキンなど衛生材料の素材として使われます。一方、パルプ不織布は、パルプを原料としており、クッキングペーパーやオシボリなどに使われます。いずれも、衛生面でのニーズから、ディスプレイ（使い捨て）商品向けに採用され拡大してきました。この3種類のシート化技術を組み合わせることができるのも、弊社の特徴のひとつです。



▲ ハビックスの素材が使われている製品

■ 医療、介護分野のディスプレイ商品に着目

聞き手：これからの展望についてはどのようなお考えですか。

木村社長：現在は外食産業と衛生材料の2分野ですが、